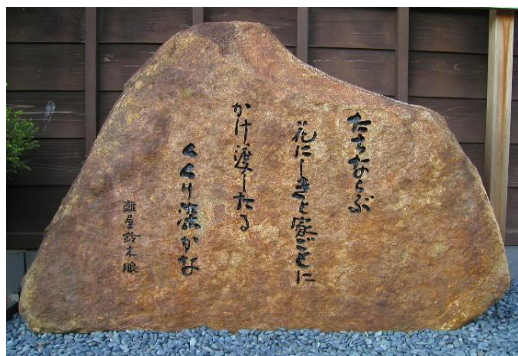


VII. 『たちならぶ・・・』 (鈴木 脰、Le abollire前)



たちならぶ  
花のにしきと家ごとに  
かけ渡したる  
くくり染かな

離屋 鈴木 脰

①作者 鈴木 脰 (すずき あきら、1764～1837)

国学者、通称常介、字は叙清、号は離屋。

宝暦14年(1764年)春日井郡下小田井村に生まれ、天保8年(1837年)6月6日に没す。

山田家に生まれるが、祖父の旧家を継ぎ鈴木姓を襲う。

尾張藩士であったが、学問を好み、幼くして丹羽謝庵、12歳で市川鶴鳴に漢学を学んだが、本居宣長の国学に傾倒し、寛政4年(1792年)29歳で入門、のち藩校明倫堂の教授となる。

墓地は東山の平和公園誓願寺にある。

原典は国学者らしく万葉仮名で書かれている。

「多知奈羅夫

波那能二志畿能以徹吾登爾

加計和多之太留

玖々里曾米迦奈」

発巳仲夏

離屋 鈴木 脰

② 設置について

平成18年1月 鈴木 活義氏 建立